

大学祭のクラス展示

～あそびのポケット～

2年生運営委員

〈Aチューターグループ〉

●宝探し

私たちAチューターは、宝探しゲームをしました。ビニールプールの中にサンテープをたくさんいれて、その中に隠したスーパーボールを制限時間内に探すというゲームです。

ボールを探せた子には、お菓子と折り紙をプレゼントしました。遊びにきた子の年齢や発達の様子に合わせて、制限時間を変更したり、ルールを付け加える工夫をしました。



サンテープが絡まったり、テープをすべて持ち上げてしまう子などがいたりしたので、事前にシミュレーションをしておくことと、始まる前に子どもたちとルールの確認を行うことが大切だと思いました。

カラフルなサンテープやスーパーボールに喜ぶ子、私たちと勝負をする子、ボールを戻して何度も遊ぶ子などがいました。

子どもたちはとても楽しそうに遊んでくれたので、私たちも一緒に楽しむことができました。



〈Bチューターグループ〉

●ようかいメダル

私たちBチューターは、妖怪ウォッチの「ようかいメダル」のぬり絵をしました。キャラクターのぬり絵で、完成したら腕に付けられるメダルを作りました。

当日遊びに来てくれた子どもたちには、見本として飾ってある物とそっくりにぬるばかりではなく、自分の好きな色で自分だけのオリジナルキャラクターにしたりできるよう声をかけて、様々な楽しみ方ができるようにしました。



子どもによって細かいところまで丁寧にぬる子や、すぐにぬり終わる子と、完成までにかかる時間に差が出たので、人数や状況からもっと円滑に進めていけるような声掛けや工夫も必要だと思いました。

イメージを働かせて自分だけのオリジナルキャラクターを作り、できたら自慢げに嬉しそうに見せてくれる子どもたちの姿をみて、私たちまで嬉しい気持ちでいっぱいになることができました。



〈C チューターグループ〉

●動物の輪投げ

ペットボトル10本（大きさバラバラ）に色水を入れ、黄色には「猿」、水色には「象」、ピンクには「ウサギ」のイラストを貼る。

いろいろな色のスズランテープを三つ編みにしてビニールテープで留めて輪投げの輪を作る。

一人が一回に、小さいカラフルな輪投げ5本、白い大きな輪投げ1本

鞆

新聞紙を鞆にして、スズランテープで持ち手を付ける。

表に「猿→バナナ」、「象→りんご」、「うさぎ→にんじん」のイラストを貼る。

折り紙でバッジを作る

頑張った達成感が味わえるように考えた。

☆ラインの手前から一人ずつ順番に鞆の中の餌（輪）を取り出し、自分の好きな動物にご飯をあげるという設定☆



《反省》

鞆の持ち手の部分が壊れやすかったため、もう少し強度の強い物しておくべきだった。また、鞆を持ったまま輪投げをするのは年齢によっては難しかった。

説明をもう少し簡単にして、難易度を上げるために年齢別にラインの位置を変えたら良かった。

折り紙のバッジはとても喜んでくれたため、頑張ったことに対してプレゼントが貰えるということは大切なことだと思った。

〈D チューターグループ〉

●ボーリング

Dグループでは、ペットボトルを利用したボーリングゲームをした。

工夫点：10月だったため、ハロウィンをイメー

ジした飾り付けをした。外装だけでなく、ボーリングのピンであるペットボトルを黒く塗り、カボチャやおばけの絵を描いた画用紙をはり、全体的にハロウィンのような雰囲気づくりを意識した。

また、飾り付けで見た目を派手にすることにより、子どもが親しみをもって遊ぶことができるようにした。

投げる位置には、大きなおばけやかぼちゃの絵を描いた画用紙を貼り、子どもが投げる場所がわかりやすいようにした。投げる位置も、3コース全て同じ距離にするのではなく、年齢に合った難易度で楽しんで遊ぶことができるよう変化させた。

さらに、ボールが転がってコースから外れることがないように、新聞紙を丸めて両端に取り付けた。

反省点：ピンであるペットボトルを絵具で黒く塗ったが、指やほかのものにも色がついてしまった。そのため、色を塗る材料・色を考えて色を付ければよかった。

また、ピンを倒した数で景品がもらえるというルールにしていたが、景品目当てが多く、ボーリングを楽しむというより、景品のためにボーリングをするといった姿が見られたため、一人何個までというルールを決めておけばよかった。

さらに、4・5人体制で行ったが、予想以上に子どもが多く、子どもを待たせてしまうことが多くあり、人数を増やす、役割を決めるなどの工夫をすればより効率よく進めることができたと感じた。

感想：2日間とも予想以上に多くの子どもがおり、たくさんの子どもの関わりながら自分達自身も楽しんで取り組むことができた。

今回、予想外なことも多く起こり、戸惑うことが多くあったため、より深く子どもたちの姿を想像し、臨機応変に対応する力が必要だと学んだ。

子どもと一緒に楽しむという目標を達成する

ことができ、とても良い経験が出来た。



〈Eチューターグループ〉

●片栗粉スライム

私たちは、片栗粉を使ってスライムで遊べるコーナーを作りました。洗面器に片栗粉と水で混ぜておいた片栗粉スライムを机の上に用意しました。机の下にバケツとタオルを用意し、遊んだあとに手を洗えるようにしました。

工夫した点は、「子どもが楽しめるように」ということを一番に考えたことです。〈けんけんば〉ができるように床にフラフープを張り、スライムで遊べるコーナーに入る前から楽しめるよう工夫しました。

水と片栗粉だけで簡単にできるスライムは握ると固くなるのに、離すと液体ようになる不思議な感触を楽しめます。また、水と片栗粉だけでできるので、小さな子どもが、万が一口に入れてしまっても安全です。子どもだけで遊んでいる状態にしないよう、常に子どもの側に学生が付いて一緒になってスライムを楽しんだ



り、会話を楽しみました。

反省点として、最後に手を洗う時に水を扱っていたため、子どもがたくさん来ているときになかなか水を替えられずバタバタしてしまいました。

遊ぶ時のルールとして、必ず机の上ですという約束をもっとわかりやすく説明するべきであり、また、3歳児の子どもたちは机で遊ぶことのできない子がいたため、エプロンなどを用意するとよかったですと感じました。

衛生面ではあまり配慮が行き届かず、衛生的でなかったこともあり、保護者の方の中には汚れてしまうからという方もいたため、もっと清潔に遊べる場の提供ができるとよかったですのではないかと感じました。遊んでいる子どもの中には年齢層の高い子どももいて、小さい子どもたちが遊びにくい雰囲気があったので、少し時間を決めたりするとよかつと感じています。



スライム遊びをするうえで、安全面を考え、ホウ砂を使わず子どもたちに感触を楽しんでもらえる遊びを考えて片栗粉スライムとなりました。初めは、水と片栗粉の分量比を何度も実際に試したりする中で、遊んでいる子どもの気持ちを実感しつつ改善点を考え、どうやら子どもが遊びたいという気持ちになれるだろうか考えました。遊びの場を「い～すらいむ国」と題したり、スライムの被り物や飾りつけをすることで興味を引き出そうと考えた結果、被り物に興味を持ってくれた子も多く、私たち自身も楽しかったのでよかったですと思います。

〈Fチューターグループ〉

●いもぱっくん

私たちFチューターは、子どもたちが楽しめるように、秋をテーマにして動物の口の中に芋を入れて遊ぶ的入れゲームをしました。連日たくさん子どもたちが来てくれてたくさん子どもたちと触れ合うことが出来ました。

この遊びのポケットをして良かった点は、2歳くらいの小さな子から小学生まで幅広い子どもたちに遊んでもらえたことです。

私たちは、様々な子が来ることを想定しての大きさや投げる距離を工夫しました。その結果どの子にも楽しんでもらうことが出来ました。



反省点は、混雑した時に投げる芋が足りなくなって子どもを待たせてしまったこと、そして投げる制限をしていなかったので一人の子がたくさん投げて、後ろで待っている子が長い時間待ってしまったことです。

しかし今回遊びのポケットをしてたくさん

事が学べました。遊びのポケットで学んだことを今後の保育に生かしていきたいと思ひます。

〈Gチューターグループ〉

●魚釣り

私たちは子どもが年齢を問わず楽しめる遊びを考え魚釣りを企画しました。前回の実習で魚釣りの指導をした学生から「ルールがわかりやすく遊びに入りこめていた」、「生き物に親しみをもって遊んでいた」と意見をもらい、もっと子どもたちに楽しんでもらおうと協力し準備しました。

カジキ、ジンベイザメ、イルカ、ザリガニ、魚を三十四匹程と釣り竿、バケツとプールを用意しました。

子どもの視点に立ち釣り竿の長さを調節して糸が絡まないようにしました。ピーク時には遊ぶ人数などを決め全員が遊べるよう工夫しました。

二日間を通してたくさんの子が遊びに来てくれました。「ジンベイザメだ！」と海の生き物に興味を持つ姿や、友達と競い合って遊ぶ姿を見ることができました。子どもたちが集中して遊んでいる姿や真剣なまなざしを見てとても嬉しく感じました。

今回感じたことや子どもたちの姿から学んだことを、現場でも生かしていきたいと思ひます。



〈Hチューターグループ〉

●玉入れ

私たちは、子どもたちがおもいっきり遊びこめる遊びをテーマに掲げました。10月といえば運動会ということで、全身を使って楽しめる玉入れをすることに決めました。年齢に合わせて、ねらいを変え、三歳児さんはカゴに玉を入れる楽しさを味わう、四歳児さんは友達と一緒に玉入れをする楽しさを味わう、五歳児さんから小学生は、玉入れで友達と競い合う楽しさを味わうというねらいをたて、準備にとりかかりました。準備の際一番気をつけたことは玉の硬さを硬すぎないようにしたことです。子どもたちが安全に遊ぶことができるよう工夫をしました。

実際に子どもたちの年齢に合わせて遊ぶことで、何歳児でも楽しみながら玉入れをすることができていました。準備の時から、いろいろなことを工夫したり、当日子どもたちの成長に合わせて玉入れをしたことが成功につながったのではないかなと思ひました。

